

14. 大量に副葬された鉄製品

仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）古墳が造られた頃は、鉄の道具がたくさん古墳に納められていたの。種類もたくさんあって、ヨロイ・カブトのほかに、武器の刀・剣・ヤリ、田んぼや畑を耕す道具、木材を加工する道具などがあって、それらは、朝鮮半島からもたらされた鉄の延べ板を材料にしていました。

展示している古墳のうち、野中（のなか）古墳からはヨロイ・カブトが11セット、アリ山古墳からは鍬（やじり）だけでも1500点、西墓山（にしはかやま）古墳からは田畑で使う道具が440点以上も見つかったのよ。これだけの鉄の品物を持っていたなんて、当時の王は、とっても力を持っていたことがわかります。

ここでクイズです。鉄の延べ板はどこで作られたものでしょうか？正解を聞きたい人は64番を押して下さい。

（64. クイズの答え）

正解は朝鮮半島です。海を渡って日本に持って来て、刀や剣などを作りました。鉄の延べ板をよく見ると、真ん中が少し狭くなっているのがわかります。これは、延べ板をたばねて、ひもで縛ることで持ち運びやすいように工夫したものです。